第3回 東備西播定住自立圏圏域バス検討会議 会議録

- 1 日時 平成25年7月26日(金) 14:00～15:15
- 2 場所 赤穂市役所 6階 大会議室
- 3 出席者
- (1) 委員
明石 元秀	東備西播定住自立圏形成推進協議会幹事長(赤穂市副市長)
高山 康秀	東備西播定住自立圏形成推進協議会幹事(赤穂市市長公室長)
三村 功	東備西播定住自立圏形成推進協議会幹事(備前市総務部長)
小西 賢	東備西播定住自立圏形成推進協議会幹事代理(上郡町企画財政課参事)
村上 正弘	株式会社ウエスト神姫
大本 一栄	日生運輸株式会社
西川 英也	赤穂市タクシー事業者代表
三浦 謹一郎	上郡町タクシー事業者代表
和田 昌樹	株式会社ウエスト神姫労働組合
藤原 真	日生運輸株式会社運転手代表
木村 音彦	赤穂市自治会連合会
藤原 知明	備前市自治会連絡協議会
塚本 義勝	上郡町連合自治会
有吉 一美	赤穂市老人クラブ連合会
滝井 良紀	備前市老人クラブ連合会
山本 毅	赤穂郡高年クラブ連合会
- (2) 委員以外の出席者(オブザーバー)
佐用 大輔	赤穂市タクシー事業者
富田 新介	赤穂市タクシー事業者
竹内 敬	上郡町タクシー事業者:代理
- (3) 専門員
上畑 光生	国土交通省神戸運輸監理部兵庫陸運部
櫻井 康彬	国土交通省中国運輸局岡山運輸支局
田路 正信	兵庫県赤穂警察署交通課
藪垣 勝栄喜	兵庫県相生警察署交通課:代理
成田 徹一	兵庫県県土整備部県土企画局交通政策課
黒澤 正之	兵庫県西播磨県民局光都土木事務所
四条 雅之	岡山県県民生活部県民生活交通課
田中 信彦	岡山県備前県民局東備地域建設課
- (4) 事務局
- 赤穂市: 東南企画広報課長、澁江企画政策係長、宮本企画広報課主査
備前市: 中野企画課長、田原企画課参事
上郡町: 井上企画政策係長

4 会議の概要

- (1) 開会
- (2) 委員長あいさつ 明石幹事長
- (3) 委員、専門員等紹介
- (4) 事務局紹介
- (5) 報告事項

副委員長の指名について

東備西播定住自立圏圏域バス運行状況について

(6) 協議事項

上郡ルート変更計画（案）について

備前ルート停留所移設（案）について

(7) その他

(8) 閉会

5 議事の概要

事務局

定刻になりましたので、ただ今から、東備西播定住自立圏圏域バス検討会議を開催いたします。本日はお忙しいところ、また、遠方にもかかわらず会議にご出席いただき、ありがとうございます。私は、本日の司会進行をさせていただきます、備前市企画課長の中野です。よろしくお願いいたします。

議事に入ります前に、本日の会議に報道機関から、傍聴の申し出がございますので、皆様にお諮りしたいと思います。会議の傍聴につきましては、会議規程に基づき、原則公開となっておりますが、出席委員の過半数の決定により非公開とすることができます。本日の議事内容は、お手元のとおりでありますので、会議の冒頭から傍聴を認めることとしたいと思います。ただし、写真撮影は冒頭のみとし、会議中の撮影、録音はできないこととしたい、と考えておりますが、ご異議ございませんか。

「異議なし」

異議なしというお言葉をいただきましたので、傍聴を認めるということで、傍聴の方にお入りいただきます。しばらくお待ちください。

(報道入室)

お待たせいたしました。

報道の方をお願いいたします。会議中の写真撮影等のご遠慮いただきますので、ただ今から、委員長あいさつまでの間のみ、写真撮影を認めたいと思います。必要な方は、この時間をお願いいたします。

(撮影)・・・よろしいでしょうか。

それでは、開会にあたりまして、当検討会議の委員長であります、赤穂市明石副市長よりごあいさつを申し上げます。

明石委員長

本日は、大変お忙しい中、第3回東備西播定住自立圏圏域バス検討会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

この圏域バスにつきましては、当定住自立圏構想推進事業の中心的な施策の1つと位置づけておりまして、過去2回の検討会議を経まして、昨年2月27日には上郡ルートが、3月5日には備前ルートが実証運行に入っております。

この間、買い物や通院など定期的なご利用をいただき、また、圏域をつなぐ動脈としての機能も果たし、住民の皆様に着実に浸透しているものと感じております。

また、ご存知のとおり、公共交通は地域の足として、日々の生活に欠かせないものであり、バスやタクシー、JRも含めた地域全体の利便性の向上が求められております。

本日は、来年早々に実証運行期間を終えることを踏まえまして、本格運行へ向けたいご意見いただくため、住民代表の皆さまをはじめ、事業者の皆様、そして関係機関の職員の皆さまにお集まりいただいたところでございます。

委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきますとともに、今後とも当圏域発展のためのお力添えを賜りますようお願いを申し上げ、簡単ではありますが、開会の

あいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

続きまして、3の委員、専門員等の紹介に移らせていただきます。第1回、第2回と会議を行いました。人事異動、各団体役員交代等により、大きくメンバーもかわっておりますので、改めまして本日、ご紹介したいと思います。

本日配布いたしております名簿の順に、お名前をお呼びしますので、その場でご起立のうえ、一言自己紹介をお願いいたします。

改めまして、協議会幹事長の赤穂市明石副市長です。

次に、協議会幹事の赤穂市高山市長公室長です。

同じく、備前市、三村総務部長です。

上郡町、宮下企画財政課長の代理として、小西企画財政課参事です。

次に、株式会社ウエスト神姫より、村上 正弘様です。

次に、日生運輸株式会社より、大本 一栄様です。

次に、兵庫県バス協会より、中澤 秀明様です。本日は、所用のため欠席されております。

次に、赤穂市タクシー事業者代表といたしまして、西川 英也様です。

次に、岡山県タクシー協会和気支部より、丸本 尚正様です。本日は、所用のため欠席されております。

次に、上郡町タクシー事業者代表といたしまして、三浦 謹一郎様です。

次に、株式会社ウエスト神姫労働組合より、和田 昌樹様です。

次に、日生運輸株式会社運転手代表としまして、藤原 真様です。

次に、赤穂市自治会連合会より、木村 音彦様です。

次に、備前市自治会連絡協議会より、藤原 知明様です。

次に、上郡町連合自治会より、塚本 義勝様です。

次に、赤穂市老人クラブ連合会より、有吉 一美様です。

次に、備前市老人クラブ連合会より、滝井 良紀様です。

次に、赤穂郡老年クラブ連合会より、山本 毅様です。

続いて、委員以外の出席者といたしまして、本日3名の方にご出席をいただいております。

赤穂市タクシー事業者、佐用 大輔様です。

同じく、富田 新介様です。

上郡町タクシー事業者、中村 捷也様です。本日は代理といたしまして、竹内 敬様にご出席をいただいております。

続きまして、専門員の皆様をご紹介させていただきます。

国土交通省神戸運輸監理部兵庫陸運部より、上畑 光生様です。

次に、国土交通省中国運輸局岡山運輸支局より、櫻井 康彬様です。

次に、兵庫県赤穂警察署交通課より、田路 正信様です。

次に、兵庫県相生警察署交通課より、小林 昇様です。本日は代理といたしまして、藪垣 勝栄喜様にご出席をいただいております。

次に、岡山県備前警察署交通課より、保田 邦昭様です。本日は所用のため、欠席されております。

次に、兵庫県県土整備部県土企画局交通政策課より、成田 徹一様です。

次に、兵庫県西播磨県民局光都土木事務所より、黒澤 正之様です。

次に、岡山県県民生活部県民生活交通課より、四条 雅之様です。

次に、岡山県備前県民局建設部東備地域維持管理課より、田中 信彦様です。

なお、今回新たに委員に就任いただいた皆様には、会長からの委嘱書及び任命書

を机の上に置かせていただいておりますので、ご確認をいただきますとともに、今後ともよろしくお願い申し上げます。

続きまして、事務局職員を紹介させていただきます。

赤穂市企画広報課、東南課長です。

同じく、澁江係長です。

同じく、宮本主査です。

次に、備前市企画課 田原参事です。

次に、上郡町企画財政課、井上係長です。

改めまして、私は備前市企画課長の中野です。どうぞよろしくお願いいたします。

委員並びに専門員、事務局の紹介は以上です。

この後の進行につきましては、委員長にお願いしたいと思います。

明石委員長 それでは議長を務めさせていただきます。円滑な議事進行にご協力をお願いいたします。

早速ではありますが、5の報告事項に移らせていただきます。

1の副委員長の指名につきまして、副委員長は、設置要綱第4条第2項により委員長が指名することとなっております。

備前市自治会連絡協議会の藤原委員を指名させていただきましたので、ご報告いたします。それでは、藤原委員さん前の席へお願いいたします。

(藤原委員席移動後) 藤原副委員長より、一言ごあいさつをお願いいたします。

藤原副委員長 備前市自治会連絡協議会の藤原です。この会議への出席は初めてですが、1回目、2回目の議事録を読ませていただきました。圏域バスへの期待と懸念が語られていたと思うのですが、これからは実際に動き出し、そのデータに基づいてシビアな議論が語られていくと思います。せっかく動き出したこのバスがしっかりと地域に根付くように、皆さんと知恵をしばっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

明石委員長 ありがとうございます。

それでは続きまして、東備西播定住自立圏圏域バス運行状況について、に移りたいと思います。事務局より説明をお願いします。

事務局

まず定住自立圏構想について簡単にご説明いたします。

この定住自立圏構想とは、平成20年に総務省が打ち出した構想でありまして、新しい広域的な市町村連携の仕組みです。平成21年12月に兵庫県赤穂市、上郡町及び岡山県備前市の3市町で協定を結び、東備西播定住自立圏を形成して、互いに連携を図りながら地域として自立し、安心して定住できる圏域づくりを進めています。

中心市は備前市であり、圏域作りのために共生ビジョンを平成22年2月に策定し、そこで具体的な取り組みを掲げ事業を進めております。資料の体系図に記載の通り、生活基盤の強化、結びつきやネットワークの強化、圏域マネジメント能力の強化の三つの分野に施策が分類されており、施策ごとに医療、教育などに分類され、その下に具体的な取り組みがあります。

結びつきやネットワークの強化の取り組みの一つとして、地域公共交通ネットワークの構築があり、そこで、圏域バスの試験運行を現在行っている状況です。

次に、圏域バス運行の概要についてご説明いたします。お手元の、東備西播定住自立圏圏域バス運行状況（運行基準の検証）をご覧ください。

第1の目的ですが、3市町が一つの圏域をつくり、様々な分野で相互に連携・

協力をしながら事業を行っております。その中核的な事業として、3市町を結ぶバスを運行し、住民の移動手段の確保、利便性の向上及び地域の活性化を図る目的で現在試験運行しているものが、圏域バスであります。

2の主体ですが、実施主体が3市町で構成する東備西播定住自立圏形成推進協議会で、運行主体がウエスト神姫と日生運輸の2社となります。

3の運行ルートですが、運行ルートは、①の上郡町と赤穂市を結ぶ上郡ルートと、②の備前市と赤穂市を結ぶ備前ルートの2ルートです。

チラシをご覧いただきたいのですが、まず、上郡ルートは、ウエスト神姫が運行し、上郡駅から千種川沿い、国道373号、国道2号、県道赤穂佐伯線、目坂から市道浜市高雄線に入りイオン赤穂店を経て、赤穂市民病院へ行くルートです。運行距離は29.2km、時間は37分。停留所は全部で19箇所となっています。

備前ルートにつきましては、吉永病院から県道岡山赤穂線を通り、三石地区を經由し、赤穂市内に入って赤穂中央病院前を通り、赤穂市民病院、イオン赤穂店に行くルートです。吉永病院からイオン赤穂店へは、運行距離は、29.2km、イオン赤穂店から吉永病院へは、28.6km、55分です。停留所は全部で30箇所となっています。これらの運行の時刻表につきましては、チラシの裏面にございます。

4の運行日と日数ですが、運行日は、月曜日から土曜日の週6日間で、祝日も運行し、日曜日及び年末年始は運休としています。各ルートとも1日2往復としており、運行主体は、下の表のとおり、上郡ルートはウエスト神姫が、備前ルートは、月曜日、水曜日、金曜日の3日間を日生運輸（備前バス）が、火曜日、木曜日、土曜日の3日間をウエスト神姫が行っております。

5の運賃についてですが、運賃は、小学生以上が対象で、1回の乗車につき、赤穂市内100円、上郡町内100円、備前市内200円で、市町域を越えた場合は全て200円としています。

6の運行開始は、上郡ルートが平成24年2月27日、備前ルートが3月5日、現在2年間の実証運行期間中でございます。その間に、利用実態などの検証を行うこととしております。

7の運行基準についてですが、①市町域を越える利用者は1便当り1人超、かつ、1日あたりのバス総利用者数は16人以上②東備西播定住自立圏共生ビジョンによる圏域事業として実施する期間とする。となっております。

前回ご承認いただきました、これらの計画に基づき試験運行を実施してまいりました。

2ページをご覧ください。試験運行の運行状況について、報告いたします。

運行状況を数値、グラフ等でまとめたものを別冊で資料として配布しております。その概要をまとめたものが、東備西播定住自立圏圏域バス運行状況報告書（運行基準の検証）の資料です。報告数値は、運行開始日から、平成25年6月末までのものです。

(1)の利用者数ですが、上郡ルートで、運行日数415日、利用者総数7,973名、1日当たり利用数19.2人、一便当り利用数、4.8人、市町域越1便当り利用者数は2.3人となっております。備前ルートで、運行日数409日、利用者総数5,213名、1日当たり利用数12.7人、一便当り利用数、3.2人、市町域越1便当り利用者数は2.3人となっております。運行基準となる両ルートで、利用者総数13,186名、1日当たり利用数31.8人、一便当り利用数、4.0人、市町域越1便当り利用者数は2.3人であり、先ほど説明いたしました運行基準を満たしているところでもあります。

次に3ページの(2)月別利用状況ですが、上郡ルートは概ね毎月500人、備前ルートは、24年度は200人台でしたが、その後300名以上の乗車が

あり、現在両ルートで平均800名以上の利用者数が確保されております。

(3)の停留所別・便別乗降客状況ですが、停留所がたくさありますので、一定のブロックに分けて、整理したものです。全体の乗客数を、停留所の乗降場所ごとに分けたものです。

上郡ルートですが、検証といたしましては、停留所別では、イオン赤穂店、赤穂市民病院での乗降数が多く、病院、買い物施設への移動といった、圏域間の移動手段の確保、利便性の向上、地域の活性化といった目的は達成しています。また、便別乗降客状況においては、第①便の7:50上郡駅発の利用が一番多く、市民病院への午前の診察及び買い物のための利用されていることが推測されます。また、備前ルートに比べて、赤穂市民病院、イオン赤穂店両方への利用者が多いことがわかります。

4ページの備前ルートですが、停留所別では、イオン赤穂店での乗り降りが一番多く、吉永地区、三石地区方面から赤穂への買い物施設への移動のための圏域間の移動手段の確保、利便性の向上、地域の活性化といった目的は達成しています。イオン赤穂店に次いで、吉永病院、三石地区、赤穂市民病院、新町の乗降者数も多く、圏域内の公共施設、病院への移動に利用されていることが数字からうかがい知れます。また便別乗降客数状況においては、第②便12:05イオン赤穂店発の利用が一番多く、備前市からイオン赤穂店へ①便できた乗客の買い物の帰りの利用及び、三石地区から吉永病院への午後の通院の足として利用されていることが推測されます。

(4)の運行経費ですが、運行開始から、3月末までの運行費用、運賃、業務委託費、運行収支率をバス会社毎に掲載しております。全体では、運行費用24,197,512円、内運賃1,663,600円、差し引きの業務委託費22,533,912円となっており、収支率は、6.9%となっております。参考に、兵庫県の25市町の平均、地方部平均に比べると大幅に低くなっております。全体の運行経費(業務委託費)は、22,533,912円であり、利用者10,659人の一人当たりの経費は、2,114円であります。

次に、Ⅱの圏域バス利用者ヒアリング調査(備前ルート)についてです。この調査につきましては、幹事会、交通部会の中で、関西福祉大停留所の利用者について、大学への通学者がいるのかという声があがり、調査したものでございます。調査は、この7月に2日間、備前ルートの全便について調査を行いました。

結果は、7月12日の利用者が7名(うち圏域越移動が7名)、16日の利用者が16名(うち圏域越移動が8名)でした。結果的に、この期間には、学生の利用はございませんでしたが、運転手からの聞き取りによると、特定の曜日に利用している学生がいるという事をうかがいました。8ページ、9ページは、年齢の階層ごとに、その利用状況を記載しております。年齢的には、65歳以上の高齢者、及び女性の利用が8割でした。利用目的は、買い物、通院が大半を占めております。また、意見は「通院、買い物に利用し、便利」、「バスは続けて欲しい」という意見がある一方で、「利用者数が少ない」「停留所が少なく不便」という意見もありました。

総括ですが、両ルートともに、一定数の利用者は定着しております。また、運行基準①の「市町域を越える利用者は1便当り1人超、かつ、1日当りのバス総利用者は16人以上とする。」も満たされており、利用者の病院、公共施設、買い物施設への足の確保という目的は、達成されていると考えております。

また、東備西播定住自立圏共生ビジョンによる圏域事業も継続して実施しているため、運行基準②も満たしております。

運行のための一般財源の支出が難しい中、国の定住自立圏構想による施策に取り組み、確かな財源として特別交付税が確保できること、圏域住民にとって圏域間の移動手段を確保しておくことは、将来的にも大きな利益となることが考えられます。

また、東備西播定住自立圏構想の施策の一つである、公立病院を拠点とした医療連携が、医師不足の現状では非常に困難な状況の中、当圏域バス事業は、単なる住

民の移動手段ではなく「圏域を結ぶ交通」として、定住自立圏構想推進事業の目的達成のために核となっている事業と定住協議会では認識しております。

以上のことから、本格運行に移行することが適当であり、皆様のご承認をいただきたいと考えております。

今後の取り組みとしては、今後想定される超高齢化社会を見据え、免許返納、買い物弱者対策として、現行の利用者負担を維持し、更なる利用を促進するとともに、圏域の公共交通としてのタクシーの利用政策を交通部会において検討していくものとしております。

ルートの変更等については、住民の方々の様々な要望のある中、圏域バスの目的が圏域内の公共施設、病院、買い物施設への運行が主体となっている点から、より細部地域への運行は、今後の検討課題といたします。以上でございます。

明石委員長 　ただ今の説明に対しまして、ご質問等ありましたら、お願いします。

専門員 　指針を定めて実証実験を行い、運行基準は達成されているということですが、本県では、補助金の交付にあたり、見直し基準の設定を求めているところです。このバスは県の補助は受けていませんが、本格運行後、一定の基準を下回った場合に、ルート変更や時刻の改定など、見直しをかけるための基準を定めておかれるのもいいのではないかと思います。そうすることで継続が図れるのではないかと思います。実態調査もされているようですが、引き続き行うことで、利用促進に向けて有効な方法を検討するために役立つと思われま。

また、先ほどの報告にありましたが、1人当たりの費用が、県内のバス事業と比較してもかかっているようです。特別交付税が入るということですが、利用促進を図るなどして、持続可能なものにしていただけたらと思います。

明石委員長 　ありがとうございました。事務局の方でただ今のご意見に対して、何かありますか。

事務局 　ご助言ありがとうございます。実証運行開始の際に運行基準を設定しているところではございますが、今後必要であれば、継続実施が可能なように見直しを図っていかねばと思いますので、その際は皆様にお諮りしたいと思います。

また、費用につきましては、参考に今回、兵庫県内のバス事業の収支率を付けさせていただきますましたが、この事業は圏域を跨ぐ地域を運行しておりまして、単純に比較できないところがあります。しかしながら、収支率の向上は当然必要と考えておりますので、利用促進を図ってまいりたいと思います。

明石委員長 　他にご意見はございませんか。

委員 　圏域の公共交通として、タクシーの取り組みを検討していただくということで、ありがとうございます。

また、先ほど報告のありました利用の状況に関してですが、前回にも質問させていただきましたが、この圏域事業というのが、いつまであるのかということをお伺いしたいと思います。圏域事業が終了した場合、この事業もなくなってしまうのかということも含めまして。さらに、いつまでの実証運行の期間に対しての基準なのかということもお伺いしたいと思います。利用者数が示されていますが、このような人数では民間企業ではとても継続できないと思います。

事務局 　まず、定住自立圏構想についてですが、現在74の圏域が全国で形成されていて、今後も拡充の方向にあると聞いておりますので、いつ終了するというような

情報は現段階では入っておりません。ですので、当バス事業の終了については、今のところ考えておりません。

本格運行後の運行基準につきましては、今後検討をしていきたいと思っております。実証運行期間中はこの基準で進めていきたいと考えております。

委員 備前ルートについてですが、赤穂方面から来ていただくための時刻設定というのは考えられていますか。と言いますのは、利用しやすいような時間設定にはなっていないんですね。圏域でつながったわけですから、今後、赤穂から備前へ遊びに来ていただくためのイベントや時刻表を考えていただけないでしょうか。

事務局 現在のところ、備前ルートは吉永方面からイオンや赤穂市民病院へのご利用が大きな割合を占めておりますので、しばらくはこの時刻表で運行していきたいと考えております。

専門員 運行開始から1年を経過していますが、利用人数などを踏まえて何か利用促進に関して取り組まれたものがあれば教えていただきたいのですが。

事務局 広報等での周知、パンフレット（時刻表）の作成・配布を行っております。今後、本格運行となりましたら、愛称を公募し、車体のカラー塗装など、より親しみがもてるバスとしてPRしていきたいと考えています。

藤原副委員長 事務局の総括に、確かな財源として交付税措置が期待できる、という文言がありますが、結局この事業は交付税頼みであることを宣言しているのではないのでしょうか。この事業を実施することにより交流人口が増えて、民間事業者がこの事業を引き受けても大丈夫であるという方向性が見えれば、交付税頼みでなくてもやっていけるという理屈になると思いますが、そういうことを目指していかないと、圏域事業がなくなれば、バス事業もやめるのかと誰しもが考えると思います。利用者の立場から言えば、いかに利用促進をしていくかということですが、先ほどから聞いていますと、（買い物や通院など）生活の足の確保が中心になっているととれますが、そうではないと思います。せっかく2市1町で圏域を形成しているわけですから、それぞれの魅力を高めて、他の都市から人が来るように、例えば閑谷学校でいろいろなイベントをしていますが、そこに圏域外の人にも来るような仕組みづくりにこそ知恵を出していかないと、この事業の将来は難しいと思います。本格運行を行うにあたり、広報体制、連携の方法などをもう一度見直すことが必要だと思っております。

事務局 ありがとうございます。今おっしゃられたことは、前回の検討会議でも、通院、買い物への利用だけでなく、イベントでの利用も活用の1つの方法ではないかとご意見をいただいております。今後イベントでの活用について、広報や他の機会をとらえ、PRをしていく必要があると考えています。

藤原副委員長 一般的な広報では効果がないので、例えば、閑谷学校で講座がある場合には、関心のある団体に声をかけて呼び水になってもらうとか、赤穂海浜公園では、ルートの中の若い世代に乗ってもらうなど、具体的な話の中の広報体制というように、1人でも2人でも地道に実績を積み上げていく方法を考えることが知恵だと思います。

事務局 ありがとうございます。例えば、民間団体が圏域内で行ういろいろなイベントに助成をしておりますが、そういった場で圏域バスを利用してもらうよう、積極的に提案していきたいと考えています。

委員

副委員長さんが先ほどおっしゃられたことについて、2回目の会議だったと思いますが、お互いにイベントがある場合にはバスの活用をしようという話が出たと記憶しています。(資料にアンケート結果がついていますが)赤穂警察管内で年間25～30人の免許証返納があると聞いておりました、そういった方の足を確保するというのも、1つの大きな目的ではないかと思いますが、同じ会議で、備前や上郡から赤穂へ来るばかりではないかとの意見も上がったと思います。いずれにしても、一方行への移動だけでは事業が成り立っていかないのではないかという話を、私もそこでさせていただいたと思います。高齢者の方などの足を確保するために、タクシーの活用もあわせて考えていかなければならないと思いますが、1度にあれもこれもというのは難しいので、まずはこの会議で本格運行について認めていただき、その後、交流のための方法や、バスだけでなく、デマンドタクシーのような方法も考えていければ、この圏域事業の目的に近づけるのではないかと思います。

明石委員長

貴重なご意見を賜り、ありがとうございました。

委員の皆さまからのご意見を踏まえまして、圏域バスの本格運行につきまして、ご承認いただけますでしょうか。

(拍手)、「異議なし」

ありがとうございます。それでは、今後本格運行に移行し、事業を継続してまいりたいと思います。

以上で、東備西播定住自立圏圏域バス運行状況について、は終わらせていただきます。続きまして、協議事項に入らせていただきます。

上郡ルートの変更計画(停留所、ルート)案について、備前ルート停留所移設案について、を議題とします。一括して事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは、上郡ルートの一部変更案等について説明いたします。

現在上郡ルートは、赤穂の市街地での停留所は、イオン赤穂店前、赤穂市民病院であります。試験運行中に上郡の住民の方々から新町、つまり中央病院前にも止まって頂けないかという要望がございました。

備前ルートでは、現在、新町に止まっており、一定の数の利用者がいらっしゃいますので、病院への利便性を図るという観点から、コースを変更したいと思えます。

コース的には、上郡発のルートで説明しますと、現在イオン赤穂店前から南進して赤穂市民病院へ行っているところを、中洲3丁目交差点(ウエスト神姫赤穂営業所)を右折し、赤穂市役所横を通過している中央通りから、国道250号に出て、新町交差点を左折、前田フォトスタジオから少し南にある既存の停留所を利用するものです。

国道を通るルートも考えられましたが、タクシー、路線バスの利用への影響に配慮し、また、信号がたくさんあり時間がかかるといった理由により、中央通りルートといたしました。そのルートを通ることにより、時間が4分遅くなる予定です。

また現在、圏域バスは、中型バスを使用しており、イオン赤穂店前、赤穂市民病院は、千鳥線わきの停留所を設置しております。今後本格運行に移り、圏域バスとして小型バスを導入することにより、備前ルートも同様ですが、現在赤穂市の市内循環バス「ゆらのすけ」の停留所がありますイオン赤穂店のマクドナルド前、市民病院の正面玄関前までの乗り入れが可能となります。利用者の利便性を図るため停留所の変更をしたいと考えております。ルート等変更案については以上です。

明石委員長 ありがとうございます。ただ今の件にご質問があればお願いいたします。

ないようですので、上郡ルート等の変更につきましては事務局が説明を申し上げたとおりでございますが、より住民の皆さまの利便性の向上を図るため、このように変更し、本格運行にあわせて変更することとしてよろしいでしょうか。

「異議なし」

ありがとうございます。それでは、一部ルートを変更して運行することとしたいと思います。

次に7のその他に移らせていただきたいと思います。事務局より何かありますか。

事務局 今後のスケジュールですが、本日本格運行のご承認をいただきましたので、バス事業者の方で、バスの購入など、手続きを進めさせていただきたいと思っております。本格運行と申しましても、既にバスは走っておりますので、運行に大きく変更はございません。先ほど申しあげましたとおり、上郡ルートにおける新町停留所の設置、ルートの一部の変更を行い、また、愛称を募集しまして、一層のPRに努めてまいりたいと思っております。それに伴いまして、時刻表（チラシ）等の作成、バス停表示の貼りかえを予定しています。

また、できれば、本格運行開始は、来年の3月頃からとさせていただきたいと思っております。

明石委員長 事務局から、今後のスケジュールについて説明がありました。名称の決定、特に住民の皆さまへのPRにつきましては、意を尽くして行ってまいりたいと思っておりますので、皆様よろしくお願いいたします。

事務局でその他にありませんか。

事務局 兵庫県交通政策課より、バスに関する資料について説明したい旨お聞きしていますので、お願いしたいと思います。

専門員 配布させていただいております「ひょうご公共交通10ヵ年計画」についてですが、25年～34年までの10ヵ年を計画期間とし、基本施策として3つ掲げております。持続可能な公共交通への再生、利便性の高い公共交通ネットワークへの再編、公共交通を地域で支える仕組みの再構築ということで、それぞれ事例を記載しております。県だけではなく、実際には市町や事業者ベースで行っていただくこともあると思っておりますので、よろしくお願いいたします。バス検索につきましては、コミュニティバスも入っておりますので、活用していただければと思います。

明石委員長 ありがとうございます。委員の方で、この機会に何かありましたらお願いします。

ないようですので、これで終了したいと思います。本日いただいたご意見をもとに、地域の方に喜ばれる施策となるよう、バスを運行してまいりたいと思っております。

本日はありがとうございました。

了

(15時15分)